

平成 29 年度 第 1 回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

開催日時 及び場所	平成29年7月7日（金） 13:30～ 15:30 中信森林管理署 会議室
出席委員	植木 達人 （信州大学農学部 教授） 委員長 生方 正俊 （国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部 部長） 奥 敬一 （富山大学芸術文化学部 准教授） 小宮山義光 （日本野鳥の会長野支部 幹事） 西條 好迪 （自然学総合研究所 理事長） 由井 正隆 （長野県木材協同組合連合会 理事） 委員8名中6名出席 （五十音順）
議 題	(1) 保護林の再編（案）について (2) 保護林モニタリング調査の実施状況について
概 要	<p>○ 保護林の再編（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護対象樹種が減少した保護林があるが、その理由は何か。 →自然遷移と考える。 ・ 保護林は廃止してもモニタリング調査は何十年に一度でも実施した方が良いのではないか。 ・ 自然維持タイプとは、保護林の廃止後も保護林と同様な取り扱いで維持されると考えて良いか。 →そのとおり。 ・ 保護林の廃止後も記録を残して欲しい。 ・ 乗鞍三本滝特定地理保護林は長野県の名勝でもあり、このまま維持していくと考えて良いか →そのとおり。 ・ 乗鞍三本滝特定地理保護林は歩道に露出した木の根が痛んでいるので、木道の整備が望まれる。 ・ 安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森は地元自治体との協定により維持する案であるが、保護林として維持した方が良いのではないか。 →現在の保護林の「郷土の森」とほぼ同じ保護管理内容による協定締結を考えている。 ・ あがりこサワラについて、松川村史にも施業経緯はないようだが、それ以前の古文書等はどうか。 →調べてみる。 ・ 戸隠地区にも「あがりこ」があり木材を使用した経緯が残っている。「あがりこサワラ」も経緯が分かれば郷土史として残せる。 ・ 白山森林生態系保護地域とレクリエーションの森の重複は、植生の推移と人為干渉という関係をモニターすると面白い。 ・ 保護林とレクリエーションの森は原則重複させないとされていることから、その理由を明確にして次回委員会で説明されたい。 ・ 賤母植物群落保護林の面積拡大については南木曾町側が中途半端になるため、南木曾町側も拡大して中津川市側と合わせることは考えているか。 →林相が異なっているので区域拡大は考えていない。 <p>○ 保護林モニタリング調査の実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水無湿性植物希少個体群保護林はこのままでは乾燥化が進行し、陸化していく遷移の途上であると考えてよろしいか。 →現地を調べ、次回委員会で説明する。 ・ ニホンジカ被害のモニタリング調査は5年に1回では調査間隔が長すぎる。 →県、環境省と情報交換する中で対応したい。著しい被害があれば定期的な調査以外にも調査したい。 ・ イヌワシの繁殖状況は、環境省や保護団体等と連絡を取って調査しているのか、目撃情報がかなり少ないと思うが。 →猛禽類の飛翔については短期的な調査では不明部分が多く、愛好家等への聞き取りを含めて調査している。